

備陽史探訪

第34号
発行
備陽史探訪の会
福山市西深津町7-2-7
印刷所 塩出印刷

『駅家町の古墳』

田口 義之

福山市北郊の駅家町周辺は古代遺跡の宝庫で数多くの古墳が存在しています。今回はそれらの中で五月五日の「親子古墳めぐり」に因んで、服部大池周辺の古墳を紹介してみよう。

二子塚（駅家町中島字池の内）

福塩線近田駅に隣り立つと北方に「弥生ヶ丘団地」が広がっています。この団地の東北角に存在する前方後円墳です。全長約六十八メートル、高さ六、五メートルを計り、前方部を西に向けています。後円部には南に開口した全長十三メートルの長大な横穴式石室が残り、後期古墳（六〇後半）としては県内最大の規模を誇り、古代備南で栄えた吉備品治国造の墓ではないかと考えられています。県史跡。

宝塚（駅家町新山字小山田）

二子塚から谷をはさんで北方の丘陵に存在する古墳時代後期の円墳で横穴式石室をもっています。墳丘は径十五メートルと小規模ですが石室の全長は七、七メートルと附近の古墳の中では大きな方です。この古墳の帯には他にも多くの古墳が知られ、中でも宝塚東方の丘陵上には「狐塚」と呼ばれる全長十メートル余の巨大な石室を持った古墳も存在します。

大迫古墳（駅家町新山字大迫）

服部大池の北に存在し、かつて金環ヶが出土したことから「金環塚」として人々に親しまれている古墳です。墳丘は全壊して痕跡も止めていませんが附近の地形から円墳か方墳だったのではないかと考えられています。内部の横穴式石室は全長十二メートルに達する見事なもので、玄室は長さ六メートル、巾二、五メートル、高さ二、七メートルを計り、周辺の後期古墳の中では最大級のものとして県史跡に指定されています。

山の神古墳（駅家町法成寺字西組）

服部大池東方の丘陵突端に存在する後期古墳で、以前は前方後円墳として紹介されていましたが現在では径十二メートル、高さ四メートルの小円墳と考えられています。この古墳の特徴は内部の横穴式石室で、石材をドーム状に積み上げた玄室は大陸の影響を強く残し、備後最古の横穴式石室の一つと考えられています。

二塚（駅家町法成寺字西下組）

山の神古墳の南東三百メートルの宅地の中に存在する後期古墳（六〇末）で墳丘は早くより失なわれ、長さ四メートル、巾二、五メートル、高さ三メートルの横穴式石室の一部のみが石材を露出させて残っています。その規模は県下でも最大級のもので完存していればどんなに素晴らしいか惜まれる古墳です。

坪生町史跡巡りを

担当して

三月二十二日朝から花ぐもりの中、福山駅前よりバスな乗り一路坪生へと向った。

城郭研究会では昨午城郭研究の近道として城郭研究のしおりを作成した。その時神辺城周辺の諸城は調査研究がなされていたが、南外郭と云

われる坪生周辺の所が空白となっていた。そこで部員の各氏から調査してはと云う意見がもちあがり、まず坪生周辺を歩いて見ようとの話しになって企画した。

山城については、仁井山城、南山城、西山城、龍王山城（小早川隆景初陣の地）清水丸古戦場をメインにして、始めは身変わり地蔵から五年程前に行った時には、田んぼの中にポツンと立っていたが、それがここ数年のうちには社が建ち、ノボリも上がって見違える様になっていた。そして清水丸古戦場では、中国地方の覇権を賭け、大内、毛利、尼子が競った戦国時代に思いをはせ、土居大塚遺跡では、荒廃した五輪塔や宝篋院塔が、春の日差しに淋しく立ち並び、昼食は次の予定の神森神社境内にて食べ、休そくした後、石州往来（石見国島根県大田市大森から備中笠岡市）を歩き、十四時過ぎ早く終ったので福山へもどり喫茶アポロで会員の入道とコーヒーを飲みながら雑談帰路についた。

あら楽し

史跡巡れば坪生の庄

春の香おりに心なごまん

後藤 匡史

坪生町散策

乗原 完二

桃のつばみもほんのりと色づいた、三月二十二日朝、曇り空も次第に薄れて来て、絶好の史跡巡りとなった。九時十分発井笠バスで、三十余名車中にぎやかに坪生町へと向う。途中運転手さんに、「何所で下車をするのですか」と問われ、下車予定の農協支所はもう通過している事を知り、ルンルン気分であつていた一同あわてて下車。

今日の案内役後藤さんの、分かり易い名調子に導びかれて、身替わり地藏より清水丸古戦場へと、昔日の面影を想い浮べ乍ら歩くと、大きな道路に出る。川かと思つと建設中の山陽自動車道との事、新旧の変化のはげしさに唯々目を見はるのみでした。続いて土居大塚館跡。神森神社を経て石州往来へと巡り歩いたが、各所に立てられている歴史説明板に、郷土に残された古い史跡を残そうとする土地の人々の心遣いが偲ばれました。

一番感じた事は、沈丁花の匂う坪生氏の古い墓地（土地の人は「おつぼうさん」と云う）を見て、其の荒

廢のひどいこと。墓地の前のおばあさんの話しに依ると、昔は現在の墓の数倍も有ったとか。墓盗人の為に墓石が次第に少なくなつて了い、心ない人がいるものだと嘆かれて居られました。

帰途は白木蓮の花を賞で乍ら、福山駅前へとバスは走る。

四月例会報告

四月五日（日）は快晴に恵まれ、四十一人の参加があつた。九時に駅前釣人の像を出発し、湯殿で受付と説明を一時間行なつた後、城内を見学。桜は早や四分咲き位で、花見客の間をかき分けながら城内をまわる。昼食の後一時に天守閣下を出発、屋からは城北の寺社の見学で、三蔵稲荷・護国神社・常福寺・どんどん池・福山八幡宮・良神社・妙政寺・胎藏寺の順で廻る。常福寺では任職、三蔵・良両社では神主さんからも説明を受け、胎藏寺では普段見れない御本尊も拝観できた。四時半に解散する。

講師は神社を種本実、寺を森紀子、福山城を吉田和隆の三名がそれぞれ担当した。又NHKと山陽新聞が取材に訪れ、当日NHKローカルニュ

ースに放映され、又翌日月曜の山陽新聞にも掲載された。

御調例会を

お楽しみを

担当 住貞 義量

御調町は尾道の北で西は三原市、東は府中市に、北は世羅郡甲山町に囲まれている。

人口は約八、六〇〇人の農村地帯である。町内には数多くの古墳や山城が残っている。

県内では三例しかないという特殊器台が、御調川中流北岸の貝ヶ原より出土している。遺跡は一〇〇ヶ所を越えているが、それらの多くは、そのまま保存されている。又白鳳期と言われている本郷平廃寺跡が一年より発掘調査が開始され、今年秋には三年次月の調査が行なわれる予定である。

町内には備前国福岡一文字の末裔と伝えられている町重要無形文化財保持者の刀匠川崎貞行氏が今も元気に家伝の鍛刀をされている。刀匠は全国的にも少なく県内では八名の刀匠が文化庁の許可を受けている。日本刀は世界に比類のない美術工芸品として愛蔵されている。作刀は厳

しい修業と精神力によって生まれるのである。この鍛練の状況を見学させて貰うことにしている。

町内有一の国重要文化財である真宗・備後三ヶ寺の一つと言われている市の照源寺に木彫で鎌倉期の涅槃像がある。彫刻されたものは全国的にも数体しかない。涅槃図は多くこれは、釈迦入滅に際し門下の大衆、動物をはじめ生けとし生きるものが相集つて悲嘆にくれている有様を表現したものである。

町の歴史民俗資料館は、ひろしま県民文化百選の「建物編」に選ばれている。建物は明末期に村役場として築造されたものを資料館に改造したものである。展示品としては、本郷平廃寺跡の軒丸瓦等の出土品を始め、考古、歴史、民俗関係の資料千数点がある。

県の重文は、民俗関係では「みあがり踊り」「御調神楽」、美術品としては、町の西部に真言宗・圓光寺所蔵の木造地藏菩薩座像と町の北部真言宗・北方坊に高さ十一センチと小型ではあるが室町期の木造地国天立像がある。

天然記念物では町の東部・菅野地区の仁野にナミノキ・そして菅のムクノキが県指定である。その外町

内には、町指定の文化財や数多くの有形文化財を保有している。全部を紹介出来ないのが残念である。昼食は町の中央部の県立ふれあいの里にしているが、ここには御調町出身で現代彫刻界第一人者の圓鑄勝三先生のブロンズ像「花園の歌」があり、クふれあいくとくといくこの場にふさわしく訪れた方がどうしてもカメラのシャッターを切らずにはおれない所である。又、町の西部には今秋より貯水する御調ダムがある。

※参加御希望の方は後記例会案内を御覧下さい。

▲マンガ福山の歴史

パートⅡ

森 紀子

マンガ水野勝成に続いて「出逢いの海・鞆の浦」が、中山善照氏によって刊行されました。これが又々、福山市でベストセラーになりました。やはり柳の下に二匹目のドジョウがいたようです。す。

私は昨年夏、放送局(RCC)で初めて中山氏を紹介されました。その時に中山氏が鞆の歴史に関心を持っておられる事を知りました。その項すでに水野勝成に続いて鞆の歴史

をマンガにするべく準備中でした。晩秋には別の放送局(ホームテレビ)がそのマンガの出来るまでの番組を制作する事になり、私にも撮影に立ち会って欲しいとの要請があり協力しました。その様なわけで私はこのマンガが出来上がるのを大変楽しみにしていました。

「出逢いの海・鞆の浦」を読んで、今回はマンガとしては、かなりハイレベルに扱ってあると思えました。絵の間に解説、補注、エピソードなど親切な説明が多数加えてあります。内容の一部には伝承、或いは伝説を取り上げてありますから、歴史家の目から見れば、ウーン?と首を捻る場面もありましょう。しかし、郷土史は一般的には硬い印象がありますから、マンガで分かり易く解説して

あれば、入門書としては格好の本ではないかと思えます。内容は当然の事ながら浅薄になりますが、簡単に読めて内容が把握しやすい利点があります。現代の子供たちにしても若い人たちにしても、テレビで育った、いわゆるビジュアル世代ですから、てっとり早く知識を吸収出来るところが受ける所以でしょう。

このマンガが発刊された事が引き金となり、鞆に住む青年達を中心と

なって「鞆を愛する会」を発足させました。豊かな歴史的遺産、或いは観光資源を有しながら今ひとつ低迷している鞆町の「町おこし」に立ち上がったのです。その為のシンポジウムが三月二十三日夜、鞆の浦会館で行われました。基調講演を中山氏がされ、パネルディスカッションでは「行動へ/今日から鞆は面白い」をテーマに、はきもの博物館の丸山氏、中小企業団体中央会指導部長の中村氏、県観光振興室長の榊氏、京都大学建築学科の山崎先生の四人が中国新聞福山支社長の本山氏の司会で討論を重ね、いろいろと提言されました。聴衆の中に牧本市長がプライベートで来ておられ、行政側の立場の人としてコメントを求められるという思わぬハプニングもありました。

この日は、福山駅へ京大の山崎先生を出迎え、その足で福山城、明王院、鞆の浦と一緒に建造物を見てまわりました。先生は各地の町並み保存に携わられ、とりわけ京都の三寧坂などの町並み保存に力をいれてこられただけに、専門家の目で鞆の町を観察しておられました。そして『ぜび鞆を町並み保存地区にすべきです。古い町並みと新しい建物の調

和は可能です。』とおっしゃっていました。それに以前、文化財保護審議委員会で提出されていた鞆の町並み保存の要望書にも目を通しておられました。この様な問題は机上の空論だけでは、予算を楯になかなか行政は動いてくれません。住民一人一人の問題意識が重要です。その為の行動を起こした鞆の青年たちに私は拍手を送りたいと思います。これも中山氏のマンガが鞆を愛する人たちの行動指針となった事は否めないと思います。丸山氏がこれからは知恵と実行力を競争する時代だと言われました。本当にそうだと思います。口先だけで理想を言っても進歩はありません。その意味で歴史開発を多面的に捉える中山氏を、ただものではないな、との印象を受けました。



「鞆を愛する会」は発足したばかりです。しかし、クリエイティブな英知を結集して鞆の浦はこれから確実に様変わりしていくでしょう。

『城研ニュース』

〃 椋山城跡調査終了 〃

城郭研究部会

昨年十月から測量に入っていた福山市駅家町服部永谷に所在する中世山城跡「椋山城」の調査は去二月十五日を以って終了した。

二月十五日は天候にめぐまれ厳冬とは思えないほどの暖かきで作業は急ピッチで進んだ。

参加者は田口、山下、七森、後藤の4名とやや少ない人数だったが地元の人々の熱心な協力もあって午後三時過ぎには各郭の調査をおえ下山した。

この調査によって判明したことは椋山城は典型的な室町期山城の姿を残している貴重な遺跡だということである。調査報告は後日発表する予定だが、服部谷という小地域の山城としては形態も整い、その実態解明に必ずや地方史研究に益することだろう。

余談だが地元の人々の熱意には頭がさがる思いがする。文化財の史跡指定にあたっては文化財そのものの学問的価値の重要度はむしろのこと

だが、まずなによりも文化財に愛着を持ち、先祖の遺産として守ろうとする多くの人々の存在が大前提ではなからうか。

(中世を讀む会)

毎月第三金曜日 午後六時三〇分

於福山市民会館第三会議室

城郭研究部会事務局

〒720 福山市多治米町九一六

田口義之方

TEL (〇八四九) 五三一六一五七

五月例会

〃 御調町史跡めぐり 〃

参加者募集

・期日 五月三十一日(日)

午前八時三十分福山駅裏

キャッスルホテル前集合

・見学予定 刀匠川崎貞行氏訪問、

照源寺、町立歴史民俗資料

館、本郷平庵寺、円光寺、

御調ダム。

・講師 住貞義量御調町郷土史研究

会事務局長。

・会費 二千五百円(貸切バス代、

謝礼等実費)

非会員 三千円

・定員 四十五名

・申し込み方法 電話かハガキで事務局(神谷方)までお申し込み下さい。定員に達し次第締切ります。

・備考 弁当持参、雨天決行。

(事務局)

〒720 福山市西深津町七一二一七

神谷和孝方

TEL (〇八四九) 二二一三九四〇

トピックス

後藤 匡史

一、末森氏担当の二月例会で行った楽音寺が此の度、広島県の重要文化財に指定された。

当日、指定が予定されているとの末森氏提案で何か探訪会の会でも出来ないかとの事にて、ノボリを寄贈することに決めた。

寄せ棟造り本瓦ぶき

慶長三年(一五九八年)再建と云う。

二、此の度、沼田小早川氏四代茂平の宝篋院塔修復中、中から遺骨や副葬品の珠数玉等が見つかった。宝

院塔の中から遺骨が見つかったことについては、めずらしいと云う。

墓は本郷町船木、臨濟宗妙心寺派永福寺。

三、岩谷山、青目寺 第五十六回開帳法要、四月三日から五日の間の三日間、文化財及び大蛇頭蓋骨も特別公開、本尊は十一面観世音菩薩。

府中市中須町 小寺幸一氏

編集後記

今回は、〃おわびのページ〃とした方がいいような欄なのですが、忙しくて(公私とも?)原稿は集まったのですが、スペースはあったのに、のせられませんでした。ゴメンナサイ。

最後に新入会員の紹介です。

CONFIDENTIAL
備陽史探訪の会

個人情報が含まれるため掲載できません。

以上の方々です。よろしく。

187